●シリーズ●わがまちの文化財〈33〉

県指定重要文化財　廃万年寺僧侶墓碑

昭和34年10月30日指定

万年寺は、鎌倉時代から室町時代（12～16世紀）にかけて栄えた臨済宗仏通寺の寺院です。長年の間に廃寺となっていましたが、三川ダムの建設とともに水没し、残存する古石塔群（墓石・供養塔）は、ダムの中にある小島（もとは小山）に移され保存されています。

移転した数多くある古石塔群の中に、広島県の指定を受けた重要文化財があります。

室町時代16世紀　半ば頃の無縫塔（むほうとう）や墓碑（ぼひ）、宝篋印塔（ほうきょういんとう）です。また、このうち6基に銘（人物の名前・・年号などの文字）が刻んであります。

中世禅宗寺院の墓制を研究する上で貴重な資料です。

●シリーズ●わがまちの文化財〈34〉

県指定史跡　カナクロ谷製鉄遺跡

昭和62年2月21日指定

昭和48年、農園開発に伴い発見され、広島大学により発掘調査が実施されました。発掘調査の結果、斜面をL字状にカットして造った平坦面に二基の製錬炉が見つかりました。二基の配置関係から、二つの炉が同時に稼働していたわけではなく、一基を廃炉とした後に二基目が造られており、二基とも、炉底下に防湿の施設が設けられていたことも調査によりわかっています。出土した鉄滓類の成分分析により、製鉄の原料として砂鉄と鉄鉱石が混用されていたと考えられています。

この遺跡の年代は、出土の須恵器片から6世紀末から7世紀初めごろの時期と思われます。県内でもこの時期のものは例が少なく、中国地方の砂鉄の製錬の源流とも言われています。

▲発掘調査当時の様子